

掛川市図書館協議会 議事録

会議名	令和7年度 第3回図書館協議会		
場所	掛川市立中央図書館 会議室B		
開催日時	令和8年3月11日(水) 午前10時00分から午前11時30分まで		
出席者	会長 杉浦 雅美(議長) 会長代理 田中 克美 委員 荒木 伊久美 委員 松下 由香 委員 鶴田 伸司 委員 柳原 秀子 委員 高木 久直 委員 永田 孝明 委員 三宅 早苗	(事務局)	館長 山田 京子 副館長 佐藤 行秀 主幹 富田 徹 中央図書係長 松下 恵子 大須賀図書係長 澤島 由基乃

1 報告事項

- (1) 令和7年度 図書館利用状況及び事業実施状況について
- (2) 令和8年度 図書館の開館(休館)日について
- (3) 令和8年度 図書館事業実施計画について
- (4) 掛川市子ども読書活動推進計画の策定について
- (5) 新・移動図書館車の運行について

2 協議事項 なし

[議事概要]

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

- (1) 令和7年度 図書館利用状況及び事業実施状況について
- (2) 令和8年度 図書館の開館(休館)日について
- (3) 令和8年度 図書館事業実施計画について
事務局から一括報告

(会長)

夜間利用状況について、1日平均の入館者数が、中央138人、大東37人、大須賀19人、3館の人口割で考えると中央70%、大東20%、大須賀10%という割合になる。そう考えると中央の138人は2日間なので2日で割ると、1日あたり約70人なので人口割70%の75人と同じぐらいかなと思う。大東は37人で人口割20%に対し、倍近くの人が来館している。大須賀も19人で人口10%の倍近くの来館者なので、夜間開館は十分価値があるので、続けていく意義があると思う。

(委員)

どうしたら図書館行政に何かプラスになるか、以前いただいた「掛川市の図書館」を読んできた。令和7年度版を見ると11ページに図書館購入費の予算が記載してあり、令和4年度から令和6年度の3年間は、約1800万円の予算がついている中で、昨年令和7年度が1500万円です。令和8年度予算が、今年度の予算額を上回ったのか、下回ったのか教えていただきたい。

噂によると 1200 万円程度という話を聞いたが、どうでしょうか。

(事務局)

議会の議決前なので、正式に決定していませんが、要求額としては委員のおっしゃるとおりです。

(委員)

今後魅力ある図書館づくりをしていく時に、資料購入費が削減されていくのは、なかなか厳しい予算編成なのかなと思う。私が調べてきたことなので、正しいかどうかはわからないが、合併前は、旧掛川図書館館で 2000 万円程度の予算があったが、合併後、3 館でありながら、昨年が 1500 万円まで削減されていることを鑑みると、予算削減の影響として新刊が減少するわけで、貸出数が減少傾向の中、来館者数は増えている状況は、掛川市が頑張っていると評価できると思うが、次年度以降も予算削減しても大丈夫と悪循環に繋がらないか大変危惧している。文科省が、公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準を、1999 年に策定しているが、図書資料費は、年間図書購入冊数として、住民 1 人当たり 1 冊程度を目安とするのが望ましいというふうに書いてある。ただ、全国の現状を見ると、2020 年の全国平均で、日本図書館協議会、図書館年報などデータから見ると全国の自治体平均では、図書費は、住民 1 人当たり大体 150 円です。文科省が定めた住民 1 人当たり 1 冊という値段からすると、大きくかけ離れている。紙の高騰や運賃の上昇で、昔は文庫本 1 冊でも、600 円で買えたものが、1000 円程度の状況になっている。掛川市の人口が約 11 万 2000 人なので、全国平均の 150 円を当てはめると、大体 1700 万円程度の予算額になると思う。今後 3 館を念頭に入れるのであれば、以前のように 1800 万円程度は確保できていないと、南部の特に大須賀とか大東館は、閉館ありきみたいな話になってしまうのではないかと危惧している。民間の我々図書館協議会の委員が図書購入費の予算をしっかりと確保してほしいと言っていたことを、是非上に上げていってほしいと思う。

(事務局)

私達現場にいる職員がそれはとても感じており、年々予算が削減され、非常に苦労しています。毎年、予算要求をしていく中で、市全体の予算削減のことを言われると、全体的に縮小傾向になっているのが現実です。私達は引き続き声を上げて要求をしていく考えですが、微力なところもありますので、皆さまからの声も一緒に届けていけたらと考えております。

(会長)

平均で人口割りすると、1700 万円は、予算確保の協議資料のデータとして利用できると思う。

(委員)

教育委員会の定例会でも、図書館の時間はあまりと思うので、しっかり時間を設けて協議してもらうことも必要ではないかと思う。

また家庭の読み聞かせの件で、掛川ほんわかブッククラブの主権の俳句の話があったと思うが、自分の娘が賞をもらい、親として読み聞かせしてきてよかったなど実感した。親が読み聞かせして、そして自分の子供に引き継がれて続いていくのだと思う。大小あると思うが、そのような賞があることで親子の励みにもなると思う。家庭での読み聞かせは、とても重要なことだと思う。

(会長)

1 月 4 日は年末年始期間で休館日となっているが、4 日は開館しているところもあると思うがいかがか。

(事務局)

年末年始期間として、12 月 29 日から 1 月 4 日までが、休館日となりますが、次の日が年末年始明けになりますので、年始の開館準備として出勤する形をとっています。

(4) 掛川市子ども読書活動推進計画の策定について

事務局から報告

(委員)

本の寄贈は、どのように受けてもらえるのか。

(事務局)

本の内容を確認させてもらい、所蔵するかどうかは図書館に任せてもらう形で受け入れしています。

(委員)

来年度、作家に来てもらい、講演会を予定している。その方は自分の子供に知的障害があり、発達障害の子を持つ親の気持ちを知った。

その後、その方は一般社団法人を設立し鎌倉を中心に発達障害の子供を持つ人達やお寺を中心に活動している。

4月4日土曜日の10時から私のところでその方の講演会を開催する。それを大坂小学校の支援級の先生に伝えたら、少し変な話ですが、親は先に亡くなってしまうため、子供を残していかなくてはいけないと不安を持っているので、近くでそういう講演会をやっていただけると大変ありがたいと言ってくれた。

このような方の本も置いていただけるのか？

(事務局)

はい。

(会長)

遺贈もあると思うが、図書館で内容を確認の上、受け入れの判断をするということですよ。

(事務局)

はい。

(委員)

皆さんが行って良かった図書館づくりに全力を注いでいる中、行けば新しい本がある、調べたいものがわかるというニーズが、予算が無い中、事業もいろいろ実施し、成果は上がっている。ほんわかプランの中で表現が難しい部分ではあるとは思いますが、目に見えないソフトの部分についても予算が無い中、どうしたらいいかというものも、視野に入れていくべきだと思う。

最初のほんわかプランは、夢だったと思う。それから、現実味を帯び、予算のことも視野に入れながら、非常に良い改定がされてきていると思うが難しい部分もあるのかなと思う。

図書館活動グループなどから、こういう本があるといいと図書館に言ったが、買ってもらえなかったというような話も聞いたことがあり、例え1冊でも買ってくれることによって、微々たるものかもしれないですが、さらに活動を頑張っていこう、良かったと思う活動グループの方たちが増えるのではないかなと思う。ほんわかプランに書かれていること以外の努力があっこそ、今後3館が頑張っていて成果を上げているのではないかなと思う。

(会長)

図書館の中に入ると気づかないこともあるので、私たちが外から見た視点で発言することが大事だと思う。

(委員)

30年ぐらい前に富士宮の戸田書店で勤めていた頃の先輩が、身寄りがなく亡くなられたが、遺言に自分の財産を図書館に使いたいとおっしゃってくれて、芝川図書館とか富士宮西図書館とか富士中央図書館前から、ほしい本を私にリクエストを出してもらい、注文をして、届けてきたことがありました。図書館の方から、こういった本が買いたいとか言ってくれたら、もっと寄附などに繋がりがいいのではないかなと思う。全国的に図書館の予算が減少している中、図書館側から発信しているところもあるので、予算が無い中で、魅力ある図書館づくりを進めていくには必要ではないかと感じた。

(委員)

掛川市は、新年度の大綱の中に、もし自分の遺産を市で使ってほしいという遺贈があった場合、お受けしますと記載されていると思う。そういった中に図書館への項目があると、もっとわかりやすいのかなと思う。大東図書館も大石徳四郎さんの遺贈のお金が基金としてあり、元々は掛川市の予算だけではなく、そういう予算もありながらやっていたが、その部分もなく

なってしまったので、予算確保はなかなか難しくなってくるだろうと思う。

そういう方々への呼びかけも図書館としてはやることは悪いことではないと思う。人と人との声かけや付き合いがしっかりできていけば、そういったことにも繋がっていく。先ほどの委員の発言にもあったように、言ったことに対して一つでも応えてくれることが、そういったことに繋がりを持ってくるのではないかと思う。

(会長)

本や金銭の寄附は、1年に何件かありますか。

(事務局)

大きなものでは、児童書を所蔵してほしいと、毎年50万円ずつ図書カードで寄付してくださる方や、それ以外には、知り合いの方が本を出したから寄贈したいと持ってきてくださる方、読み終わった本を寄贈したいという方など、随時寄贈は受けています。

(委員)

一市民からすると、大きな遺産は限られていると思うが、例えば、図書館が、今この本を探しているとかアピールしたら、本1冊ぐらいだったら、市民1人で、いつもお世話になっているから1冊ぐらいなら寄贈できるかなとか、そういう形もあるのかなと思う。

(委員)

図書費削減が利用者に及ぼす影響というのがありまして、日本図書館協会や各自治体の統計によると、図書費が20%削減されると、貸し出し数が平均で10%から15%落ちるそうです。

一方、図書費を年間500万円増額した自治体では、翌年に貸し出し数が8%から12%程度やっぱり増加したという報告があげられていて、新刊購入が減ると利用者の再来館率は下がるし、特に子供・若年層の利用が落ち込む傾向ってというのが顕著だということは、資料を調べると出てきます。一昨年で1800万円ついていた予算が昨年1500万円になって、今年1200万円になると、もの凄い落ち方だと思う。今後の持続可能な図書館のあり方としては、個人からの寄贈など一つ選択肢ではないかと、本日の皆さんの意見を聞いて私も感じた。

(5) 新・移動図書館車の運行について

事務局から報告

(委員)

図書館の利用率、利用者が上がってほしいという意味で、街中に行くと土曜日にけっトラ市やおかみさん市など、いろいろやっている。

新しい移動図書館車でイベントに来てもらえると、やっぱりそういうイベントは盛り上がると思うし、日頃図書館に行かない人もものすごく多い。かわいらしい図書館車が来れば、初めて気付く方が大勢いると思う。図書館の利用者カードを持ってない方が大勢いると思う。おおぞら号やコスモス号ではなく、せっかく新しいわくわく号とかひまわり号がイベントにも行くと書いてあると、利用者カードを持ってない人たちと出会うことが出てくると思う。その時に、利用者カードないと貸せませんではなくて、その場で簡易的に発行できるような、その場で初めて来てくれた図書館利用者を確保するようなことをやると、利用率が上がっていくのではないかと思う。初めて図書館に出会う人がアクセスポイントになるのではないか。

(委員)

待っているよりも、来てもらうための努力をして身近にしないとということですね。

(委員)

昔は何でもプリントしたり、印刷物を掲示したりとかで良かったと思うが、そういうものよりは、割とアウトプットして来てもらう時代かなと思うので、そのようなチャンスが図書館車を得たことによって、チャンスと捉えてほしいと思う。一般の方が今まで図書館で本を書いたことないけど、貸して欲しいって言っても、利用者カードがないと借りられないでしょう。何かうまいやり方があれば、新しい顧客、利用者を獲得することができるのではないかと思う。

(杉浦会長)

けっトラ市やおかみさん市に移動図書館車がいるイメージが浮かんできましたので、お話をしてみるっていうのはいかがですかね。

(委員)

学校では、全校1年生は1回目に来てくれる時にカードを作ってくれる。

やはりカードをつくることによって、図書館により足を運びやすくなると思う。

(永田委員)

前に話をしたことがあるが、少し難しいって言われたのでできないと思うが、以前視察に行った時に、駅に図書館の本を返す場所があって、そこに返せば、回収に来てくれるということ北海道かどこかでやっていて、急激に利用率が上がった実績があったと思う。

よく大須賀図書館に行く方が返しに行くのをもう少し何とかしてくれればと言っていた。

便利を追求される世の中なので、もう少し改善されていくと変わってくるのではと思う。掛川市でも夜間に返却できるのはすごく便利だと思う。

(委員)

返却する場所が、市役所とか大須賀支所とか行政の機関だったら、安心できるかなと思う。

(委員)

報告4のほんわかプランの中で、子供たちの実態に合ったプランだと思う。特に外国籍の児童が多いので、多様化への対応はポイントになると思う。先日、大東支所の4階に外国籍の子供たちが放課後の集まるすまいるテラスという場所を作ってくれて、外国籍の子どもための本がたくさんあるといいなと思った。教育委員会では第3の居場所としては盛り上げていきたい思いがあるので、図書館でも協力いただけるといいかなと思う。

報告5の移動図書館が2月18日に千浜小に来てくれて、本当にかわいい小回りの利く軽トラなので、また是非きてもらうよう要請をしたいと思う。

(委員)

待っているよりも、来てもらうための努力をというが、すごく心に響いた。移動図書館にも関連するかもしれないが、読み聞かせで参加者がゼロになって中止になったこともあったと伺ったが、やはり待っているのは絶対駄目だなと思っていて、小学校に勤務していますが、以前は幼稚園に勤務していたので、来てねと言っても誰も来ない。こちらから行ってそういう姿勢は見せることが大事だと思っていて、どんなに綺麗に図書館、図書室を飾っても来てくれなければ意味がないので、学校司書は本当にすごいなと思っていつも見ている。図書館だけではなく、自分がもうすぐ授業をやる時期になると、学校司書の方が関連した本を教室に持ってきてくれるし、普段の司書の方とあまり話をする機会がなくても、情報をきちんと収集して連携が取れているところがすごく頭が下がる思いで、やはり自分から動かなければとすごく思いました。

それから支援級に関わっているのですが、小学校は朝10分間読書の時間があるのですが、来年度から朝の読書がなくなって、給食の後10分間に日課が変わる。図書館の話とは違うかもしれないが、子供たちの本離れが見えてわかるので、日課が変わってどのような効果があるのかみていきたいと思う。私は支援学級8人を2人で見ているが、読みなさいという10分間はすごく苦痛だと思うので、1人は丸付けをして、もう1人は低学年の子供たちに読み聞かせをするようにしている。そうしたら子供たちの表情を見ても10分間が苦痛でなくなったのではないかと思う。やはり本を読みなさいでは駄目なので、やはり自分から動いていかないといけないことを学ばせてもらった今日の会議だったと思う。

(委員)

小学校の時の先生が給食の後に読み聞かせをいつもしてくれて、それが怪談だった。

活発な男の子たちもその怪談をすごく楽しみにしていて、カーテンを閉めて先生早く読んで、給食も早く食べるから読んでという形に変わってきて、初めは別にみんな聞かなくてもいいんだよって言っていた怪談が、クラス全員、先生が読んでくれるのが楽しみで、先生がすごい声色で読んでくれるので楽しかったことを今でも覚えている。やはり読み聞かせはすごく影響があると感じた。

もう一つは、電子書籍の話ですが、身内が入院して、その時にまず本を読みたいと言われた。本をいくつか持っていったのですが、多分本人の望むような本ではなかったのではないかなと思う。その時に電子書籍が読めれば、もっと好きな本がたくさん読めるのだろうなと思った。もっと年配の方に対して、電子書籍の使い方など紙媒体でわかりやすい手順書みたいなものがあったら、デジタルに疎い方であっても電子書籍を手にとることができるのではないかなと思う。

(委員)

私は重度の心身障害者の子たちを預かる放課後デイサービスにお手伝いに行っています。

先ほど支援学級の子たちにも読み聞かせがすごく効果的だっていう話を聞いて、私もそういう経験を毎日のようにしている。喋れなくても書けなくても表情で応えてくれるっていうのを経験していて、本当に読み聞かせて大事なことだなって実感している。私達の世代が子育てをするときには、ほんわかプランがあったのかどうかわかりませんが、何歳時にはこういった方がいいですよとか、家庭向けのリストが今では作られて配布されていて、子育てに関する様々な施策が充実してきて、図書館からも絵本リストであるとか、若いお母さん向けのそのようなリストが簡単に手に入るような時代になってきていて、とても羨ましいなという気持ちになっている。図書館のそういった活動は、すぐには結果が出ないものかもしれないが、毎日の読み聞かせがいつか花開く、そういうことがあるので、この活動は是非続けていただきたいと思う。

(委員)

作家に来てもらった方がいいなと思ったのは、書く人の言葉を伝えて欲しいと思った。

作家が本を書いた時に、どういう意図で書いたかとかあると、読み聞かせの時に、もう少しこうやって読むといいかなとか、そういうのが出てくるのかなと思った。自分の娘の障害について、自分の家にそのような子が生まれて、初めてその立場になってわかったことを、生きた言葉で伝えてもらおうと、この本を読むときに、その本を読む姿勢がまた変わらと思うし、身近に読む方としても、心の込め方が変わってくるかなと思うし、紙媒体の良さも伝わるのではないかなと思う。

(会長)

貸し出しの関係で1年に1回ぐらいですが、2週間延長しても読む時間がなくて読み切れない時があって、その場合、返却で現認したら継続で貸し出してくれるようなシステムにはならないか。延長で返却したら、その日は借りられないので、続きを読むには次の日に借りに行かなくてはいけないのが、すごくストレスだなと思っている。これは要望です。

4 連絡事項

(1) 委員報酬の振り込みについて

5 閉会